

クリスマス・メッセージ（ヨハネによる福音書六・三七）

クリスマスおめでとう！ 教会員の皆さん、またホームページを御覧の皆さん、東北は仙台の一隅から、クリスマスのお祝いを申し上げます。神の恵みと平安があるように祈ります。

今年もクリスマスを迎え、私どもはまもなく二〇二二年の新しい年の歩みを始めようとしています。

今年のクリスマスで私どもが聞いたメッセージは、神の真実ということでした（Ⅱコリント一・一八）。神はご自分に忠実な方である、約束の言葉を必ず実現する、神は信頼できるということでした。

過ぎゆくこの年も、私ども、何と多くのことに遭遇し、予期せぬ喜び、そして悲しみも味わったことでしょうか。しかし、どのような出来事にあっても、神の真実を、私ども忘れてはならないと思います。イエス・キリストによって憐んでくださることを忘れてはならないのです。

グローバルゼーション「地球規模に拡大すること」という言葉を頻繁に耳にするようになって久しくなります。今年も、あらゆる分野で、それが進んでいることを感じることも多い年でした。

地域や国境を越えて、人も物も多くの情報も行き交い、交流が深まることは歓迎すべきことです。

しかし他面、経済や政治の分野での覇権争いも激しくなり、平和が脅かされる事態も多発しています。

貧富の格差、社会の分断化も進んでいます。その中で、とくにこの日本で、若い人だけではない、すべての世代で、きわめて生きにくい事態が生じつつあることを、昨今の事件を通して知るものです。

病気も、まるでグローバルゼーションの波に乗るかのようにして、コロナのパンデミック「世界的流行」となって、いまなお私どもを脅かしています。根本には、人類の生活による自然破壊、地球環境の悪化、とり分け、温暖化があるとも言われます。一つの地球を共有して生きる、いわば地球市民としての人間の責任は、ますます大きなものになっています。

来年、二〇二二年の『日々の聖句』（ローズンゲン）による「年の聖句」は、「わたしのもとに来る人を、わたしは決して追い出さない」という主イエスの言葉です（ヨハネによる福音書六・三七）。本当に、来年の聖句としてふさわしい言葉です。時代と歴史の中で、私ども教会は宣教を使命に歩んでいます。このイエス・キリストの言葉、ひとりも失うことなく、神の救いに与らせる、このイエスご自身のミッション「使命」こそ私ども教会のミッションなのです。

「わたしのもとに来る人を、わたしは決して追い出さない」、この主の言葉を、私ども今年のクリスマス・メッセージとして聞きつつ、新しい年へ向かって、信仰と希望と愛をもって歩んで行きましょう。

（二〇二一年二月二四日）